

科目名	研究法A					単位数	2	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・パソコン室
授業概要	作業療法の実践場面で遭遇する疑問や関心を解決するために、研究法の基礎を学ぶ。									
一般目標	作業療法国家試験に出題される範囲(研究倫理、研究方法等)の学習は修了し、国家試験問題を解答することができる。									
テキスト 参考書等	教科書:ゴールドマスターテキスト作業療法学 作業療法研究法(メジカルビュー) 参考書:作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた(医学書院)、標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 第2版(医学書院)など									

到達目標			
知識(認知領域) ・研究法で扱われる用語の意味を理解し、説明できる。 ・作業療法士国家試験過去問題を正しく解答できる。			
技術(精神運動領域) ・文献検索ができる。それを、まとめられる。			
態度(情意領域) ・毎回の授業に遅刻、早退、欠席することなく参加できる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	研究法概論①	作業療法研究とは何かを説明できる。研究のプロセスを説明できる。	テキストp1～13を読み、概要を理解する(30分)。 テキストp1～13を読み、授業内容を復習する(30分)。
2	研究法概論②	文献検索の方法を説明できる。また、文献を検索できる。	文献検索の基礎について予習する(30分)。 文献検索の手順を振り返り復習する(30分)。
3	研究法概論③	研究のアイデアから研究デザインまでの過程を知る。主な研究デザインを説明できる。	研究デザインの種類について予習する(30分)。 各研究デザインの特徴を整理し復習する(30分)。
4	研究法概論④	研究倫理を説明できる。	研究倫理の基本原則を予習する(30分)。 研究倫理の重要性について復習する(30分)。
5	研究疑問と文献検索①	研究疑問を解決できる文献を検索できる。また、文献内容を説明できる。	研究疑問の立て方をテキストで予習する(30分)。 検索した文献内容のまとめ方を復習する(30分)。
6	研究疑問と文献検索②	研究疑問を解決できる文献を検索できる。また、文献内容を説明できる。	文献検索サイトの使い方を予習する(30分)。 自身の研究疑問に合う文献を復習し探す(30分)。
7	量的研究①	量的研究とは何かを説明できる。	量的研究の定義をテキストで予習する(30分)。 量的研究の基礎知識を整理し復習する(30分)。
8	量的研究②	量的研究とは何かを説明できる。	量的研究の手法について予習する(30分)。 授業で扱った量的研究の例を復習する(30分)。
9	質的研究①	質的研究とは何かを説明できる。	質的研究の概念をテキストで予習する(30分)。 質的研究の特性について整理し復習する(30分)。
10	質的研究②	質的研究とは何かを説明できる。	質的研究のデータ収集法を予習する(30分)。 質的研究の分析方法を振り返り復習する(30分)。
11	事例研究①	事例研究とは何かを説明できる。	事例報告の意義をテキストで予習する(30分)。 事例研究の進め方を整理し復習する(30分)。
12	事例研究②	事例研究とは何かを説明できる。	事例研究の構成をテキストで予習する(30分)。 授業内容を振り返り事例研究を復習する(30分)。
13	統計①	統計学が必要な理由を説明できる。統計に関する専門用語を説明できる。パラメトリック検定を実践できる。	統計学の基礎用語をテキストで予習する(30分)。 パラメトリック検定の手順を復習する(30分)。
14	統計②	統計に関する専門用語を説明できる。パラメトリック検定を実践できる。	統計の専門用語を再度予習する(30分)。 パラメトリック検定の実践を復習する(30分)。
15	統計③	統計に関する専門用語を説明できる。国家試験問題を解答できる。	国家試験の統計問題を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法領域での研究実績がある。	

科目名	研究法B					単位数	2	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	事例報告・事例研究とは何かを理解する。臨床実習前の文献検索・レビュー、臨床実習後のレジメ作成(事例報告)を通じて、臨床における思考過程を理解することを主たる目的とする。									
一般目標	・臨床実習において必要な文献を検索できる。 ・検索後、論文をまとめ、その内容を説明できる。 ・臨床実習事例報告(レジメ)の焦点化や考察で論理的に事例の状態を説明できる。 ・文献を参考、引用し、より根拠ある考察をすることができる。									
テキスト参考書等	作業で創るエビデンス～作業療法士のための研究法の学びかた～(医学書院)									

到達目標										
知識(認知領域) ・事例研究と事例報告の違いを説明できる。										
技術(精神運動領域) ・必要な文献を検索し、まとめて説明することができる。 ・規程どおりにレジメ作成ができる。指導後にレジメを修正できる。										
態度(情意領域) 個人ワークで論文を枠組みに沿ってまとめることができ、それをメンバーに説明することができる。グループワークに積極的に参加することができる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	事例報告・事例研究とは	事例研究と事例報告の違いを理解し、事例報告のプロセスを説明できる。	前期資料(研究法A)を読む(30分) 配布資料を読み、分からない単語を調べる、まとめる(30分)
2	文献研究①	臨床実習Ⅰ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめることができる。	実習に行く病院について調べ、多い疾患を知る(30分) 検索した文献1つを読み解き理解する(30分)
3	文献研究②	臨床実習Ⅰ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめ、発表できる。	検索した文献1つを読み解き理解する(30分) 検索した文献1つを読み解き理解する(30分)
4	文献研究③	臨床実習Ⅱ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめることができる。	実習Ⅱ期に行く病院の特性と、想定される主な疾患について調べておく(30分) 検索した文献2つ目を読み解き理解する(30分)
5	文献研究④	臨床実習Ⅱ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめ、発表できる。	検索した文献2つ目を読み解き理解する(30分) 検索した文献2つ目を読み解き理解する(30分)
6	山口県作業療法学会参加	演題発表を聴講し、事例報告の流れや考察方法等を理解できる。	学会プログラムを確認し、自分が重点的に見学する演題を3つ以上ピックアップしておく(30分) 参加しての感想、学んだことなどをまとめる(30分)
7	山口県作業療法学会参加	基調講演、シンポジウム等を聴講し、今後の作業療法の可能性を考察できる。	県学会のプログラム内から自身でキーワードを検索してみる(30分) 参加しての感想、学んだことなどをまとめる(30分)
8	山口県作業療法学会参加	基調講演、シンポジウム等を聴講し、今後の作業療法の可能性を考察できる。	県学会のプログラム内から自身でキーワードを検索してみる(30分) 参加しての感想、学んだことなどをまとめる(30分)
9	研究法国試対策(1)研究法に関する用語の整理、意味理解、ノート作成	研究法に関する用語を整理し、意味を理解するため、ノート作りを行うことで、研究に関する国家試験問題が解けるようになる	前期資料(研究法A)を読む(30分) 作成したノートを読み返し、理解する(30分)
10	研究法国試対策(2)研究法に関する用語の整理、意味理解、ノート作成	研究法に関する用語を整理し、意味を理解するため、ノート作りを行うことで、研究に関する国家試験問題が解けるようになる	作成したノートを読み返し、理解する(30分) 作成したノートを読み返し、理解する(30分)
11	研究法国試対策(3)研究法に関する用語の整理、意味理解、ノート作成	研究法に関する用語を整理し、意味を理解するため、ノート作りを行うことで、研究に関する国家試験問題が解けるようになる	作成したノートを読み返し、理解する(30分) 作成したノートを読み返し、理解する(30分)
12	研究法国試対策(4)研究法に関する用語の整理、意味理解、ノート作成	研究法に関する用語を整理し、意味を理解するため、ノート作りを行うことで、研究に関する国家試験問題が解けるようになる	作成したノートを読み返し、理解する(30分) 作成したノートを読み返し、理解する(30分)
13	事例研究Ⅰ期	臨床実習事例をレジメでまとめることができる。	ケースについて、評価、問題点、目標、治療を考える(30分) ケースについて、評価、問題点、目標、治療を考える(30分)
14	事例研究Ⅰ期	臨床実習事例をレジメでまとめることができる。	ケースについて、評価、問題点、目標、治療を考える(30分) ケースについて、評価、問題点、目標、治療を考える(30分)
15	事例研究Ⅰ期(文献検索)	臨床実習事例をレジメでまとめることができる。(文献を参考引用できる)	ケースについて、評価、問題点、目標、治療を考える(30分) 各回の指導内容に基づきレジメを修正し、最終的な提出形式に整える(30分)

成績評価方法						
		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得
小テスト					評価なし	
宿題授業外レポート		○			30	
授業態度				○	評価なし	
発表・作品		○	○	○	70	
演習					評価なし	()内はGPA点数
出席				○	欠格条件	
担当教員		実務経験紹介		病院での実務経験あり、学会での発表や参加経験あり		

科目名	作業療法管理学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	作業療法士として働くうえで最低限必要な制度などについて、またチーム医療での働き方について具体的な内容を取り上げて講義する。作業療法士国家試験の出題範囲は網羅して学習する。									
一般目標	作業療法部門の組織体系について理解し、病院・施設等での役割について理解する。また、作業療法に関わる診療報酬や施設認可の規定、記録等の個人情報の取り扱い、医療事故・ヒアリハットに対する危機管理等の実際や、守秘義務等のチーム医療で必須となる職業倫理について理解を深める。作業療法士国家試験を解答できる。									
テキスト 参考書等	作業療法管理学入門 第3版(医歯薬出版)									

到達目標			
知識(認知領域) ・作業療法部門の管理・運営について説明できる。 ・管理・運営に関する法律・制度について理解する。			
技術(精神運動領域) ・グループワークにおけるディスカッションを建設的に実施できる。			
態度(情意領域) ・授業に出席し、主体的に授業に参加できる。 ・学生同士で知識を共有しながら取り組む(アクティブラーニング)。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	作業療法におけるマネジメント	マネジメントの特性やPDCAサイクルについて理解し説明することができる。 作業療法におけるマネジメントを考察することができる。	作業療法管理学p1～p10を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
2	組織の成り立ちとマネジメント	組織の仕組みについて理解し説明することができる。組織における集団と個人の関係性を理解する。組織における作業療法の役割を理解する。組織における作業療法部門の労務管理を理解する。	作業療法管理学p11～p23を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。
3	情報のマネジメント	情報の種類とその違いを理解できる。情報の階層性に応じて行動が変わることを理解できる。診療情報の役割と記録の基本原則を理解できる。	作業療法管理学p26～p33を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
4	作業療法と医療サービス	サービスとは何かを理解できる。サービスの基本的特性と構成を理解できる。医療におけるサービスの特徴を理解できる。	作業療法管理学p38～p47を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
5	医療安全のマネジメント	アクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラーを理解できる。医療事故を減少させるための方法を考察することができる。	作業療法管理学p50～p63を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
6	作業療法業務のマネジメント①	新人教育および人材育成の重要性を理解できる。	作業療法管理学p68～p77を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
7	作業療法業務のマネジメント②	情報とか何か、タイムマネジメントやストレスマネジメントとは何かを理解できる。	作業療法管理学p80～p89を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
8	作業療法業務のマネジメント③	作業療法実践のための業務管理と人材育成について理解できる。1回目～3回目の講義内容を踏まえた小テストを実施する。	作業療法管理学p92～p97を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
9	作業療法の役割と職域	作業療法の法的根拠を理解できる。作業療法に関連する法律および定義を理解できる。職能団体の意義と役割を理解できる。	作業療法管理学p108～p115を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
10	作業療法士の職業倫理	倫理的態度について理解できる。作業療法士の職業倫理・研究倫理について理解できる。ハラスメントとその防止について理解できる。	作業療法管理学p118～p126を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
11	作業療法をとりまく諸制度①	病院や診療所、介護・福祉施設といった作業療法士が所属する事業所の運営に関連する制度を理解する。	作業療法管理学p130～p143を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
12	作業療法臨床実習の理解と管理体制	作業療法臨床実習の到達目標と評価について理解できる。作業療法臨床実習の指導体制および指導方法について理解できる。作業療法臨床実習で求められる学生の資質について理解できる。	作業療法管理学p170～p179を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
13	作業療法を取り巻く諸制度②	地域包括ケアシステムにおける連携や役割分担を理解する。作業療法士の関与が期待されている介護予防について目的や事業を理解する。以上を踏まえた内容をグループで簡潔にまとめることができる。	作業療法管理学p148～p157を1読しておく。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
14	管理学まとめ(演習)	第13回講義よりまとめた内容の発表資料作成を実施することができる。	グループワークでの役割を把握し円滑に遂行できるように準備する。(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)
15	管理学まとめ(演習)	第13回講義よりまとめた内容の発表を実施することができる。	資料準備の作成を行う(30分) 授業資料の復習を行う。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上
小テスト	○			20	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品	○			10	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。	

科目名	精神障害作業療法評価法実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	精神科作業療法で用いる評価法を体験的に理解し、留意点を意識しながら演習に取り組んでもらう。									
一般目標	精神科作業療法における評価の流れを理解、実施する。									
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学(メジカルビュー社) ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版(中央法規)									

到達目標			
知識(認知領域) 各種評価法の手順や留意点を挙げることができる。			
技術(精神運動領域) 1. 関与・非関与観察を行い、評価表に沿って記録する。 2. 作業療法導入面接を行い、面接で聴取すべきポイントを押さえる。 3. 情報収集面接を行い、面接で聴取すべきポイントを押さえる。 4. 作業面接を行い、作業遂行力評価のポイントを押さえる。 5. 節度ある態度、言葉遣いで面接することができる。			
態度(情意領域) 授業に参加できる。居眠りや私語をすることなく、意欲的に授業に取り組むことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション・復習	精神科作業療法の手順や各項目の詳細を説明することができる。	精神科作業療法の基本手順を確認する。(30分) 全体的な評価の流れと項目を復習する。(30分)
2	観察①	関与観察における評価項目を列挙し、その項目を観察することが出来る。	関与観察の評価項目をテキストで予習する。(30分) 演習で実施した観察項目を整理し直す。(30分)
3	観察②	2の講義で観察された事実を評価表に記録することが出来る。	評価表への記録方法について予習する。(30分) 観察した事実を評価表に正しく記録する。(30分)
4	観察③	対象者の1週間の様子を非関与観察し、評価表に記録することが出来る。	非関与観察の手順と留意点を確認する。(30分) 1週間の様子を記録した内容を振り返る。(30分)
5	インテーク面接	インテーク面接の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。	インテーク面接の目的と手順を予習する。(30分) 面接の概要と留意点をノートにまとめる。(30分)
6	インテーク面接	インテーク面接の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。	面接の記録方法について基礎を復習する。(30分) 演習で行った面接内容の記録を整理する。(30分)
7	インテーク面接	インテーク面接を経験し、手順、留意点を再度列挙、説明することが出来る。	面接時の接遇や言葉遣いを再確認する。(30分) 面接手順と留意点を再度説明できるよう復習。(30分)
8	インテーク面接	面接情報をプロセスレコードに記録し、自身の言動を振り返ることが出来る。	プロセスレコードの記述法を予習する。(30分) 自身の言動をプロセスレコードで振り返る。(30分)
9	情報収集面接(COPM、ADOC)	情報収集面接(COPM、ADOC)の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。	COPMとADOCの概要をテキストで予習。(30分) 情報収集面接の演習内容と記録を復習する。(30分)
10	情報収集面接	情報収集面接で得られた情報をプロセスレコードに記録し、自身の言動を振り返ることが出来る。	面接情報の整理方法を予習する。(30分) プロセスレコードを用い自身の言動を省察。(30分)
11	作業面接	作業面接の概要、手順、留意点を説明でき、箱作り法を実施することが出来る。	作業面接と箱作り法の概要を予習する。(30分) 箱作り法の実施手順と留意点を復習する。(30分)
12	作業面接	作業遂行記録表に作業面接での対象者の様子を記録することが出来る。	作業遂行記録表の書き方を予習する。(30分) 対象者の作業の様子を記録表にまとめる。(30分)
13	作業面接(交互色彩分割法)	作業面接(交互色彩分割法)を実施し、手順、評価視点を説明することができる。	交互色彩分割法の手順をテキストで予習。(30分) 交互色彩分割法の評価視点を整理する。(30分)
14	精神科作業療法評価の流れの復習	精神科作業療法評価の流れを説明することができる。	これまでの評価の流れをテキストで確認。(30分) 評価の一連のプロセスを説明できるよう復習。(30分)
15	まとめと試験対策	精神科作業療法評価の流れを説明することができる。	各種評価法のポイントを総括し予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			70	
授業態度			○	30	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	藤井 浩希		実務経験紹介	精神科病院で13年臨床経験あり。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。	

科目名	運動器障害作業療法学実習A					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	この授業では運動器障害の治療手段として用いられる基本的な手技を安全・正確に行うことを修得する。									
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的対応を習得する。・治療の目的、方法を対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を習得する。・対象者の疾患、状態、Needに合わせた基礎的な治療技術を習得する。・治療を適切な方法、時間内で実施する技術を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) / 標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) 実践リハ評価マニュアル 臨床ROM(ヒューマン・プレス) / 新・徒手筋力評価法(協同医学出版社) / 作業療法 技術ガイド(文光堂)									
到達目標										
知識(認知領域) 各治療内容について、その対象、実施方法、注意事項を理解し説明出来る。										
技術(精神運動領域) 各治療内容について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。 治療対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(目線を合わせるなど)が出来る。										
態度(情意領域) 授業に出席する。服装は学校指定ポロシャツで参加すること。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。										
回数	授業内容		授業目標				事前学習(上段)・事後学習(下段)			
1	オリエンテーション 運動療法とは		運動器疾患における運動療法の意義を理解し説明することができる。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				運動療法の意義について予習する。(30分) 運動療法の目的と意義を復習する。(30分)			
2	関節可動域訓練①(関節包内運動、関節モビライゼーション)		正常な関節を徒手的に動かした際の感触(最終域、緩み、滑り、転がりなど)を体感し理解することが出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				関節運動の解剖学・運動学を復習する。(30分) 授業で体感した関節の動きを復習する。(30分)			
3	関節可動域訓練②(関節包内運動、関節モビライゼーション)		関節可動域訓練を学生同士で体験し、適切な触れ方、動かし方、力加減を習得する。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				前回の訓練手技と触知部位を確認する。(30分) 実技での触れ方や力加減を復習する。(30分)			
4	関節可動域訓練③(ストレッチング、セルフエクササイズ)		IDストレッチングを用い、ストレッチングの基礎を学ぶ。筋生理学・解剖学を復習・確認しつつ実施出来るようになる。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				ストレッチングに関する解剖学を復習する。(30分) 授業で実施した基本手技を復習する。(30分)			
5	関節可動域訓練④(ストレッチング、セルフエクササイズ)		IDストレッチングを用い、ストレッチングの基礎を学ぶ。筋生理学・解剖学を復習・確認しつつ実施出来るようになる。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				対象となる筋の解剖を再確認する。(30分) 実技で学んだエクササイズを復習する。(30分)			
6	筋力増強訓練①		筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				筋力増強のメカニズムについて予習する。(30分) 運動負荷と基礎的な訓練方法を復習する。(30分)			
7	筋力増強訓練②		筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				筋力増強のリスク管理を再確認する。(30分) 実践した筋力増強訓練の手技を復習する。(30分)			
8	筋力増強訓練③		筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				訓練の対象筋と実施方法を確認する。(30分) 運動負荷の設定と実技手順を復習する。(30分)			
9	筋力増強訓練④		筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				これまでの筋力増強訓練を総合的に復習する。(30分) 訓練のポイントと注意点を整理する。(30分)			
10	感覚・知覚再教育①		知覚再教育のための基礎知識を理解し説明することが出来る。基礎的な知覚再教育を実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				知覚再教育の基礎知識を予習する。(30分) 基礎的な知覚再教育の実施方法を復習する。(30分)			
11	感覚・知覚再教育②		基礎的な知覚再教育を実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				知覚再教育の目的とアプローチを確認する。(30分) 実施したプログラム内容と手技を復習する。(30分)			
12	物理療法		物理療法の基礎を学び、その方法、効果、禁忌等を学び、必要に応じ実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				物理療法の基礎・効果・禁忌を予習する。(30分) 物理療法の実施方法と安全管理を復習する。(30分)			
13	模擬患者練習①		関節可動域訓練、筋力増強訓練を訓練プログラムとして模擬患者に実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				各訓練(可動域・筋力)の手技を確認する。(30分) 模擬患者への対応や課題を振り返る。(30分)			
14	模擬患者練習②		関節可動域訓練、筋力増強訓練を訓練プログラムとして模擬患者に実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				訓練プログラムの実施手順を再確認する。(30分) 模擬患者に対する接遇と治療を復習する。(30分)			
15	まとめ		学んだ治療手技組み合わせ、接遇を含め適切に実施出来る。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。				学んだ全治療手技と接遇を総復習する。(30分) 実習全体を振り返り、定期試験に備える。(30分)			
成績評価方法										
	知識(認知領域)		技術(精神運動領域)		態度(情意領域)		評価割合	成績評価基準		
定期試験	○						100	秀(4):90点以上		
小テスト							評価なし	優(3):80点以上		
宿題授業外レポート							評価なし	良(2):70点以上		
授業態度					○		20	可(1):60点以上		
発表・作品							評価なし	不可(0):60点未満 未修得		
演習							評価なし			
出席					○		欠格条件	()内はGPA点数		
担当教員				実務経験紹介		作業療法士として臨床15年、教育機関で9年の実務経験がある。				

科目名	運動器障害作業療法学実習B					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	臨床実習では対象者に対して適切な評価・治療を実施する必要がある。本授業では客観的臨床能力試験（OSCE）を通じて作業療法に必要なとなる主要な評価・治療方法を学習する。									
一般目標	各種評価、治療を実施する技術を身につける。									
テキスト 参考書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE（コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版／機能障害・能力低下への介入編）（金原出版）									

到達目標										
知識(認知領域) ・各種評価、治療の方法について説明できる。										
技術(精神運動領域) ・各種評価、治療を実施できる。										
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	客観的臨床能力試験 (OSCE)に関するオリエンテーション	OSCEの概要について説明できる。 第1回OSCEに向けて計画を立てることができる。	OSCEの概要についてテキストで予習する。(30分) 授業内容を復習し、OSCEに向け計画を立てる。(30分)
2	OSCE事前講座 (ROM+MMT)	対象者にROM測定およびMMTを実施できる。	ROMとMMTの解剖・運動学の基礎を確認する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
3	OSCE事前講座(BRS+感覚)	対象者にBRSテストおよび感覚検査を実施できる。	BRSと感覚検査についてテキストを予習する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
4	OSCE事前講座(起居動作+更衣動作)	対象者に対し起居動作と更衣動作の指導が出来る	起居動作と更衣動作の指導手順を確認する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
5	OSCE事前講座(精神科 観察)	精神疾患患者に対する観察評価を実施できる	精神科における観察評価のテキストを予習する。(30分) 授業内容を復習し、評価のポイントを振り返る。(30分)
6	OSCE課題練習	OSCE課題に対して十分な練習が出来る	各OSCE課題について解剖等の基礎を確認する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
7	OSCE課題練習	OSCE課題に対して十分な練習が出来る	OSCE課題の手順を予習する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
8	OSCE課題練習	OSCE課題に対して十分な練習が出来る	OSCE課題の手順を予習する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
9	OSCE課題練習	OSCE課題に対して十分な練習が出来る	OSCE課題の手順を予習する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
10	OSCE課題練習	OSCE課題に対して十分な練習が出来る	OSCE課題の手順を予習する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
11	OSCE課題練習	OSCE課題に対して十分な練習が出来る	OSCE課題の手順を予習する。(30分) 実技の手技を振り返り試験に備える。(30分)
12	OSCE準備	OSCE試験の環境を整え、試験の流れ、手順、実技の最終確認が出来る	実技試験の最終確認のため基礎を復習する。(30分) 授業内容を復習し、OSCE本番へ備える。(30分)
13	OSCE準備	OSCE試験の環境を整え、試験の流れ、手順、実技の最終確認が出来る	実技試験の最終確認のため基礎を復習する。(30分) 授業内容を復習し、OSCE本番へ備える。(30分)
14	OSCEフィードバック	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。	OSCEの振り返りに向けテキストを確認する。(30分) 授業内容の復習を行い、課題の計画を立てる。(30分)
15	OSCEフィードバック	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。	これまでの課題解決に向け基礎を確認する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法						
		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○	○		100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト			○		評価なし	
宿題授業外レポート				○	評価なし	
授業態度					評価なし	
発表・作品					評価なし	
演習					評価なし	
出席					欠格条件	
担当教員			実務経験紹介		各担当者が各領域での作業療法を実践した経験を10年以上有している	

科目名	運動器障害作業療法実習C					単位数	1	時間	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・レクリエーション室
授業概要	臨床実習に向け、演習・実習を通して運動器障害をもつ事例への評価計画からプログラム立案まで一連の作業療法の流れを学ぶ。									
一般目標	運動器障害をもつ模擬事例への評価計画を立て、プログラム立案までの一連の流れを実施できる。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院) / 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院) 作業療法技術ガイド(文光堂) / 脳卒中の機能評価SIASとFIM(金原出版株式会社)									

到達目標										
知識(認知領域) 運動器障害を持つ事例に対して、作業療法の流れを列挙しその根拠を説明できる。										
技術(精神運動領域) 運動器疾患を持つ事例に対して、評価計画・作業療法実施計画を立案することができる。 運動器疾患を持つ模擬患者に対して、評価計画に従い評価を実施することができる。収集した情報を適切にまとめることができる。										
態度(情意領域) 授業に出席する。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。										
回数	授業内容		授業目標					事前学習(上段)・事後学習(下段)		
1	オリエンテーション 事例検討疾患概要		運動器作業療法における思考・実践プロセスについて理解し、説明することができる。他部門から得られる情報を整理できる。事例の疾患概要を調べることができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					シラバスを確認し、運動器作業療法における実践プロセスを把握する。 提示された事例の疾患概要と病態について整理する。		
2	他部門情報、OT評価計画		ボトムアップ・アプローチとトップダウン・アプローチ両方の視点から評価計画を立てることができる。評価項目を列挙できる。評価手順を説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					対象疾患に予測される機能障害・能力低下を予習する。 演習を振り返り、ボトムアップ・トップダウン評価の視点を整理する。		
3	OT評価計画		作業療法評価の手段、方法、必要な道具について説明出来る。評価に必要な環境設定を説明出来る。評価に必要な評価用紙およびマニュアルを整理することができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					評価学テキストを用い、必要な評価方法と道具を予習する。 立案した評価計画の手順と、必要な環境設定を整理する。		
4	全体像の把握		評価結果から問題点と利点を列挙することができる。評価結果をICFシートに記載することができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					ICF(国際生活機能分類)の構成要素とシートの書き方を復習する。 演習を振り返り、事例から抽出した問題点と利点(強み)を整理する。		
5	評価結果の分析・解釈		問題点を整理することができる。ICFシートの「相互作用モデル」「独立性」について検討し、機能・活動・参加の予後予測ができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					前回のICFシートを見直し、機能・活動・参加の関連を予習する。 演習を振り返り、抽出した問題点の根拠を整理する。		
6	問題点の抽出		整理された問題点に優先順位をつけることができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					抽出した問題点に対する優先順位の付け方を予習する。 演習を振り返り、優先順位を決定した思考プロセスを整理する。		
7	目標設定		治療目標(リハビリテーションゴール、長期目標、短期目標)を立案することができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					リハビリテーションにおける長期目標・短期目標の立て方を復習する。 演習を振り返り、設定した目標の妥当性を整理する。		
8	OT実施計画立案		OT実施計画を立てることができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					設定した目標を達成するための具体的な治療手技・活動を予習する。 演習を振り返り、立案した作業療法プログラムの根拠を整理する。		
9	まとめ		評価計画や実施計画を振り返り、修正案を立てることができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					第1回～第8回までの事例検討(評価計画～プログラム立案)を見直す。 演習全体を振り返り、評価・治療プロセスの修正点を整理する。		
10	模擬患者評価計画・評価実施(面接)							面接に必要なADL評価(FIMなど)や情報収集項目を予習する。 模擬面接を振り返り、言葉遣いや情報収集の不足点を整理する。		
11	評価計画・評価実施(面接)		評価の計画立案:対象者の障害像を予測し、必要なADL評価・質問・観察項目を列挙して優先順位をつけることができる。 面接・実技の実施:適切な言葉遣いと態度で接し、体調・バイタル確認および面接を実施できる。 情報の整理と採点:収集した情報をレジュメに沿って整理し、FIMの採点ができる。 積極的な学習態度:主体的に授業に参加し、積極的な発言や質問ができる。					前回の反省を踏まえ、面接手順とFIMの採点基準を再確認する。 模擬面接を振り返り、収集した情報のレジュメへのまとめ方を整理する。		
12	評価計画・評価実施(計測)							模擬事例に予測される身体機能検査(ROM、MMTなど)の手順を予習する。 模擬検査を振り返り、実技の正確性と安全配慮(転倒予防等)の課題を整理する。		
13	評価計画・評価実施(計測)		検査・計測の計画立案:対象者の障害像を予測し、必要な検査項目の列挙と優先順位付けができる。 安全な検査・実技の実施:適切な態度で接し、安全面(転倒予防・苦痛軽減)に配慮し、検査の実施や起居・移乗介助ができる。 情報の整理:収集した情報をレジュメに沿って整理できる。 積極的な学習態度:主体的に授業に参加し、積極的な発言や質問ができる。					前回の反省を踏まえ、検査手順や移乗介助の安全確認を復習する。 模擬検査を振り返り、検査結果の解釈と記録方法を整理する。		
14	評価計画・評価実施(計測)							残りの必要な検査項目と、これまでに収集した情報を整理しておく。 一連の計測を振り返り、不足している情報や手技の修正点を整理する。		
15	まとめ		対象者に実施した面接や検査を振り返り、修正案を立てることができる。主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。					第10回～第14回の模擬患者評価で得られた全記録を見直す。 実習全体を振り返り、臨床実習に向けた自身の課題と目標を整理する。		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	20	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として臨床15年、教育機関で8年の実務経験がある。		

科目名	内部障害作業療法学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	内部障害の作業療法について評価・治療を通して基本的な知識を学ぶ。									
一般目標	内部障害の評価について説明できる、また作業療法について説明できる。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)									

到達目標			
知識(認知領域) 各疾患について説明できる。それぞれに対応する評価・治療を説明できる。			
技術(精神運動領域) 評価・治療の実施手順を説明できる。			
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	呼吸器疾患の基礎	作業療法士が関わる呼吸器疾患の基礎知識を説明できる。	呼吸器の解剖生理と基礎知識を予習する。(30分) 呼吸器疾患の基礎知識と病態を復習する。(30分)
2	呼吸器疾患の作業療法評価	呼吸器疾患の作業療法評価を説明できる。	テキストの呼吸器評価の頁を読み予習する。(30分) 授業で学んだ各種評価指標の定義を復習する。(30分)
3	呼吸器疾患の作業療法評価	呼吸器疾患の作業療法評価(ADL・運動機能評価・画像)を説明できる。	ADL評価や画像所見の基礎を確認する。(30分) 疾患と画像の関連性を復習する。(30分)
4	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器疾患の作業療法と運動リ療法の体験を通して、必要な介入方法を 列挙できる。	呼吸困難感への介入方法を予習する。(30分) 体験した運動療法の留意点を振り返る。(30分)
5	循環器疾患の基礎	作業療法士が関わる循環器疾患の基礎知識を説明できる。	心臓の解剖と循環の仕組みを予習する。(30分) 循環器疾患の基礎知識と病態を復習する。(30分)
6	循環器疾患の作業療法評価	循環器疾患の作業療法評価を説明できる。	循環器の評価項目について予習する。(30分) リスク管理に必要な評価指標を復習する。(30分)
7	循環器疾患の作業療法	循環器疾患の作業療法を説明できる。メッツについて説明できる。	メッツ(METs)の概念を予習する。(30分) 疾患別のOTアプローチと運動強度を復習する。(30分)
8	心電図について	国家試験に出題されやすい心電図とその疾患名を説明できる。	心電図の基本波形について予習する。(30分) 国試頻出の異常波形と疾患を復習する。(30分)
9	内分泌代謝疾患について	作業療法士が関わる内分泌代謝疾患の基礎知識を説明できる。	糖尿病などの内分泌疾患の基礎を予習する。(30分) 代謝疾患の病態と生活上の注意を復習する。(30分)
10	内分泌代謝疾患の作業療法・まとめ	内分泌代謝疾患の作業療法について説明できる。	代謝疾患へのOT介入方法を予習する。(30分) 授業内容を整理し小テストに備える。(30分)
11	悪性腫瘍について	悪性腫瘍について国家試験に必要な基礎知識を説明できる。	癌の基礎知識と治療経過を予習する。(30分) 悪性腫瘍に関する国試頻出事項を復習する。(30分)
12	悪性腫瘍の作業療法①	悪性腫瘍による浮腫に対する知識と後療法(リンパドレナージ等)につい て説明できる。	浮腫のメカニズムについて予習する。(30分) リンパドレナージの基礎知識を復習する。(30分)
13	悪性腫瘍の作業療法②	悪性腫瘍による浮腫に対する知識と後療法(リンパドレナージ等)につい て説明できる。	リンパ浮腫の後療法について予習する。(30分) 実技の手順や力加減のポイントを復習する。(30分)
14	終末期の作業療法	作業療法士が関わる緩和ケアについて説明できる。	緩和ケアの定義と目的を予習する。(30分) 終末期におけるOTの役割を復習する。(30分)
15	まとめ	科目のまとめ(疑問点は自己学習または、質疑応答にて解決する)	講義全体の不明点を整理しておく。(30分) 全範囲の総復習を行い定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員		実務経験紹介	作業療法士として9年勤務経験あり		

科目名	神経障害作業療法学実習A					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・レクリエーション室
授業概要	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。									
一般目標	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。									
テキスト 参考書等	リハ実践テクニック脳卒中第4版(MEDICALVIEW)、標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院)、脳卒中の機能評価SIASとFIM									

到達目標										
知識(認知領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を得得できる。										
技術(精神運動領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法について、説明ができ、模擬実施ができる。										
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。										
回数	授業内容			授業目標				事前学習(上段)・事後学習(下段)		
1	オリエンテーション 脳血管障害の作業療法 ROMex、上肢の自動介助運動について			脳血管疾患事例に対する作業療法について、説明と模擬実施ができる。 回復程度に応じた筋再教育訓練、ROMex(体幹・骨盤帯、肩甲骨・肩・手指・股・膝・足)				リハ実践テクニック脳卒中P.122～125を読む(30分) 授業で習った手技をまとめるまたは他者へ実施する(30分)		
2	脳血管障害の作業療法 基本動作と座位・起立の訓練			基本動作訓練(寝返り、起居動作、起立)、座位訓練、座位バランス訓練、立位保持訓練について説明と模擬実施ができる。				リハ実践テクニック脳卒中P.132～135を読む(30分) P132、134の動画の視聴、教科書を読む(30分)		
3	脳血管障害の作業療法 ADL動作評価			模擬患者のADL動作を観察し、FIMの点数をつけることができる。				FIMの教科書P.83～89を読む(30分) 観察した動作を思い起こし、文章にできる(30分)		
4	脳血管障害の作業療法 FIMの採点			ADLの観察からFIMの点数をつけることができる。				観察した動作からFIMの点をつけてみる(30分) FIMの教科書を見ながら採点について理解を深める(30分)		
5	脳血管障害の作業療法 上肢の自動運動、筋力訓練について。物を使用した訓練の考案			上肢の自動介助運動(片麻痺体操、スクーターボード)が実施できる上肢の自動運動訓練を説明、実施できる。サンディング、ワイピング、輸入、アクリルコーンなどの使用方法を得得できる。作業療法物品を使用しながら、目的に応じた自動運動訓練を考案できる。				P.145～152を読む(30分) 授業の資料を振り返る(30分)		
6	脳血管障害の作業療法 手指機能訓練			手指動作訓練(お手玉、ブロック、洗濯ばさみ、ペグ、ひも通し、セラプラスト、ねじ、箸など)BRS回復段階に応じた治療の選択と実施ができる。				P.153～156を読む(30分) 授業の資料を振り返る(30分)		
7	脳血管障害の作業療法 床からの起立、動作分析と訓練			床からの起立について動作分析ができる。片麻痺患者の床からの立ち上がり訓練、床上動作訓練が実施できる。				床からの起立を色々なパターンで実施してみる(20分) 立ち上がりパターンの分析結果を振り返る(40分)		
8	脳血管障害の作業療法 ADL動作訓練更衣(上衣)			片麻痺患者の更衣動作(上衣)の着脱訓練について、動作分析し説明と実施ができる。				OSCEの教科書(更衣動作、上衣)の部分を読む(30分) 授業の資料を振り返る(30分)		
9	脳血管障害の作業療法 ADL動作訓練更衣(下衣)・排泄			片麻痺患者の更衣動作(下衣)の着脱訓練について、動作分析し説明と実施ができる。				OSCEの教科書(更衣動作、下衣)の部分を読む(30分) 授業の資料を振り返る(30分)		
10	脳血管障害の作業療法 歩行訓練・入浴動作訓練			作業療法における歩行訓練の意義を説明できる。また、歩行補助具の種類と歩行訓練の方法が実施できる。応用歩行訓練について説明できる。入浴動作の分析と、訓練が模擬的に実施でき、環境調整について考えることができる。				P.139～144(歩行練習)を読む(30分) 授業の資料を振り返る(30分)		
11	片麻痺患者への家事動作訓練			IADL(洗濯、調理、庭仕事等)の動作分析と、評価のポイントを説明することができる。また調理動作の分析と片麻痺患者の課題について考え、自助具の選択と使用法が説明できる。				P.322～327(手段的ADL)を読む(30分) 授業の資料を振り返る(30分)		
12	片麻痺患者への調理訓練			実際に片手調理をするにあたり、作業の分析と計画を立てることができる。必要な自助具を準備することができる				授業で作るメニューの調理方法を事前に把握しておく(30分) 片手で難しい動作について工夫できることを考える(30分)		
13	片麻痺患者への調理訓練			片手調理をすることで、患者の気持ちに寄り添い、どのように工夫したらよいか考えることができる。また、どのような自助具があれば便利か考えることができ、自分の考えをレポートにまとめることができる。				片手調理で難しいと思われる部分を事前に把握しておく(30分) 調理に関する自助具について調べる(30分)		
14	片麻痺調理後のグループ発表			片麻痺調理を通してまとめたレポートを他者に伝えることができる。他者の意見を聞いて自身の気付きができる。				教科書P.270～274を読む(30分) 教科書P.221～230を読む(30分)		
15	脳卒中中のその他の治療について。まとめ。			CI療法、反復促通療法、電気刺激療法などの説明ができる。これまで学習してきた内容を振り返り、知識の補充、技術の練習により模擬実施ができる。定期試験範囲の確認ができる。				これまでの資料を読む(30分) これまでの資料をまとめる(30分)		

成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準	
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 良(2):70点以上	
小テスト				評価なし	優(3):80点以上 可(1):60点以上	
宿題授業外レポート				評価なし	不可(0):60点未満 未修得	
授業態度			○	その都度減点	授業中のスマホ、積極性に欠ける態度は各ー1点	
発表・作品	○			20		
演習				評価なし		
出席			○	欠格条件		
担当教員			実務経験紹介	病院勤務にて神経障害患者に対する作業療法実践経験あり		

科目名	神経障害作業療法学実習B					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・レクリエーション室
授業概要	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。									
一般目標	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院、身体機能作業療法学第4版 医学書院									

到達目標				
知識(認知領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。				
技術(精神運動領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての評価項目と治療プログラムの立案ができる。				
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。				
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)	
1	脳血管疾患模擬事例を読み、疾患について教科書や電子書籍等で調べる	提示された模擬事例の疾患について、分からないところを調べ、理解することができる。	脳血管障害について、種類や症状を復習する(30分) 症例を読み、分からない単語を教科書で調べる(30分)	
2	脳血管疾患模擬事例に対し評価項目を列挙する	提示された模擬事例の疾患について、問題点を抽出し、必要な評価項目を列挙することができる。	評価学P.248～271に目を通しておく(30分) 教科書を見ながら事例の評価項目を考える(30分)	
3	脳血管疾患模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案	脳血管疾患模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案することができる。	評価学P.272～274を読む(20分) 症例の目標や治療プログラムを見直し再考する(40分)	
4	脳血管疾患模擬事例に対しまとめたレポートを発表する	レポートをまとめ、グループで分かりやすく発表することができる。	まとめた資料を読み返し、考察する(30分) 発表後のレポートから新たに得た知識をまとめる(30分)	
5	認知症の模擬患者事例を読み、疾患について調べてまとめる	提示された模擬事例の疾患について、分からないところを調べ、理解することができる。	認知症について復習する(高齢期教科書など)(30分) 模擬事例を読み分からない単語を教科書で調べる(30分)	
6	認知症の模擬患者事例に対し評価項目を列挙する	提示された模擬事例の疾患について、問題点を抽出し、必要な評価項目を列挙することができる。	評価学P.598～600、高齢期作業療法学P.143～を読む(30分) 模擬事例の問題点を考える(30分)	
7	認知症模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案する	認知症模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案することができる	高齢期作業療法学P.99～101を読む(30分) 模擬事例の目標や治療プログラムを考える(30分)	
8	認知症模擬事例に対してまとめたレポートを発表する	レポートをまとめ、グループで分かりやすく発表することができる。	まとめた資料を読み返し、考察する(30分) 発表後のレポートから新たに得た知識をまとめる(30分)	
9	パーキンソニズムの作業療法に関して実践しながら技術を学ぶ	パーキンソン病やパーキンソニズムに対する作業療法について理解し、模擬的に実施することができる。	パーキンソン病に関して教科書を見て復習する(30分) 授業資料を見てどのような治療技術があったか振り返る(30分)	
10	パーキンソン病模擬事例を読み、疾患について調べる	パーキンソン病模擬事例を読み、分からないところを調べ、理解することができる。	パーキンソン病について復習する(原因、症状等)(30分) 模擬事例を読み分からない単語を教科書で調べる(30分)	
11	パーキンソン病模擬事例に対し評価項目を列挙する	パーキンソン病模擬事例を読み、必要な評価項目を列挙することができる。	教科書P.371～375を読む(30分) 教科書を見ながら事例の評価項目を考える(30分)	
12	パーキンソン病模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案する	パーキンソン病模擬事例を読み、目標を設定し治療プログラムを立案することができる。	身体機能作業療法学P.384～390を読む(30分) 模擬事例の目標や治療プログラムを考える(30分)	
13	パーキンソン病模擬事例についてまとめたレポートを発表する	レポートをまとめ、グループで分かりやすく発表することができる。	まとめた資料を読み返し、考察する(30分) 発表後のレポートから新たに得た知識をまとめる(30分)	
14	脊髄小脳変性症、小脳病変に対する作業療法について実践しながら技術を学ぶ	脊髄小脳変性症、小脳病変に対する作業療法について技術を学ぶことができる。	身体機能作業療法学P.392～399を読む(30分) 授業資料を見てどのような治療技術があったか振り返る(30分)	
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、分からなかった部分などを復習することができる。	これまでの資料を見返す(30分) これまでの資料を見返し、必要に応じてまとめる(30分)	

成績評価方法						
		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					評価なし	
宿題授業外レポート					評価なし	
授業態度				○	10	
発表・作品		○			90	
演習					評価なし	
出席				○	欠格条件	
担当教員			実務経験紹介		病院勤務にて神経障害患者に対する作業療法実践経験あり	

科目名	神経障害作業療法学実習C					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・レクリエーション室
授業概要	高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の評価法の詳細や介入法の知識を学習する。									
一般目標	・高次脳機能障害を有する方に作業療法を実施する際必要とされる検査を実施する知識・技術を習得する。 ・事例検討を通して作業療法評価を立案する知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学(医学書院)、身体機能作業療法学(医学書院)									

到達目標										
知識(認知領域) 各検査の実施方法を説明できる。 事例検討に必要な情報を説明できる。										
技術(精神運動領域) 検査を実施できる。 事例検討のまとめをレジュメとして作成できる。										
態度(情意領域) 積極的な態度で授業に参加しグループワークを行うことができる。授業に出席する。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	模擬事例(脳画像)提示。画像の意味を調べ理解する。	提示された模擬事例の脳画像より、障害部位や症状を予測できる。また、脳画像について調べ、説明することができる。	脳血管疾患について教科書などを見て学習する(30分) 模擬事例を見て、分からないことなどを調べ学習する(30分)
2	模擬事例に関する情報シートを提示。患者の状態を予測し、分からないことを調べる	提示された情報シートより患者の状態を予測できる。また、情報シートの中で分からない内容を調べ、説明することができる。	模擬事例を見て、分からないことなどを調べ学習する(30分) 情報収集シートを見てわからない単語などを調べ学習する(30分)
3	情報シート②を提示し、FIMの点をつけ、必要な検査項目を列挙する。	情報シート②を見て、FIMの点数をつける事ができる。また、必要な評価項目を列挙することができる。	FIMの教科書の必要な項目(食事や更衣や排泄等)を読む(30分) FIMの教科書を読みながら足りない情報を列挙する(30分)
4	グループで意見交換し、一つにまとめる	自身の意見を他者に伝え、他者の意見を聞き、ディスカッションすることで知識を深めることができる。	情報シートを見ながら自身の意見をまとめる(30分) 他者の意見を受け、分からなかったこと等を調べる(30分)
5	グループの意見をPowerPointにまとめる	グループでまとめた意見を分かりやすくPowerPointでまとめることができる。	教科書を見ながら知識を補充する(30分) PowerPoint資料を見なおし、情報を整理する(30分)
6	情報シート③を提示。それを基にICFシートを作成する。	情報シートを見ながら、患者のプラス面とマイナス面を把握し、ICFに落とし込むことができる。	ICFシートの書き方を授業資料などを見ながら予習する(30分) 情報シートを見ながら、患者のプラス面とマイナス面を列挙する(30分)
7	情報シート③を提示。それを基にICFシートを作成する。	情報シートを見ながら、患者のプラス面とマイナス面を把握し、ICFに落とし込むことができる。	ICFシートの書き方を授業資料などを見ながら予習する(30分) 情報シートを見ながら、患者のプラス面とマイナス面を列挙する(30分)
8	問題点の焦点化 目標の設定と治療計画を立案する	ICFを見ながら目標を考えることができる。また、目標を達成するための治療計画を立案することができる。	患者の予後予測を考える(30分) ICFシートを見ながら、目標を考える(30分)
9	問題点の焦点化 目標の設定と治療計画を立案する	焦点化・目標の設定・治療計画についてPowerPointでまとめることができる。	焦点化と目標、治療計画を考える(30分) 焦点化と目標、治療計画を考える(30分)
10	これまでまとめた資料を発表する	グループでまとめた資料を分かりやすく伝えることができる。質問に答えることができる。	自信の資料を見返し、考察する(30分) 他者の発表を聞き、分からなかったこと等を調べる(30分)
11	これまでまとめた資料を発表する	グループでまとめた資料を分かりやすく伝えることができる。質問に答えることができる。	自信の資料を見返し、考察する(30分) 他者の発表を聞き、分からなかったこと等を調べる(30分)
12	高次脳機能障害の評価を調べ練習する	高次脳機能障害の評価(検査)について、方法を理解し、学生同士で実施することができる。	高次脳機能障害の評価にどのようなものがあるか調べる(30分) 調べた内容や練習したことを復習する(30分)
13	脳血管障害やPDに関する身体機能評価について調べ練習する	脳血管障害やパーキンソン病に関する身体機能評価に関して、方法を理解し、学生同士で実施することができる	身体機能作業療法学P182～184、P382～386を読む(30分) 調べた内容や練習したことを復習する(30分)
14	脳血管障害の作業療法プログラムについて調べ練習する	脳血管障害の作業療法プログラムに関して、文献等で調べたものを説明でき、学生同士で実施することができる。	身体機能作業療法学P186～201、P387～390を読む(30分) 調べた内容や練習したことを復習する(30分)
15	治療法について発表する	調べた作業療法プログラムに関して他者に伝えることができる。	調べた内容を見直し伝え方を練習する(30分) これまでの内容を復習する(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			90	良(2):70点以上
授業態度	○			10	可(1):60点以上
発表・作品			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		病院にて神経障害患者へ作業療法実施経験あり		

科目名	精神障害作業療法学B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	精神障害者に対する治療の理論を学び、各疾患に対する治療の考え方や評価項目の列挙、治療計画を立案することができる。									
一般目標	精神科作業療法計画を立案する上で重要な治療理論を理解する。									
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第2版(メジカルビュー社) ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版(中央法規)									
到達目標										
知識(認知領域) 回復状態に応じた治療介入法を具体的に述べる。 精神科作業療法の主たる対象疾患の基本的介入方法を説明することができる。										
技術(精神運動領域) 国家試験問題を通した解説作成の際、適切な文献から根拠を見出すことができ、それを論理的にまとめて説明することができる。										
態度(情意領域) 国家試験問題を通した解説作成ではグループで協力して取り組むことができる。居眠りや私語をすることなく、意欲的に授業に取り組むことができる。										
回数	授業内容		授業目標				事前学習(上段)・事後学習(下段)			
1	統合失調症に対する介入		介入ポイントを理解し、説明できる。				教科書P66～72を読む(30分) 配布プリントを復習する(30分)			
2	統合失調症に対する介入		介入ポイントを理解し、説明できる。				教科書P73～75を読む(30分) 配布プリントを復習する(30分)			
3	統合失調症に対する介入		介入ポイントを理解し、説明できる。				教科書P76～85を読む(40分) 配布プリントを復習する(20分)			
4	統合失調症に対する介入		授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説を作成することができる。				1～3回目配布プリントの確認(45分) 配布プリントを復習する(15分)			
5	気分障害に対する介入		介入ポイントを理解し、説明できる。				教科書P111～119を読む(40分) 配布プリントを復習する(20分)			
6	気分障害に対する介入		授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説を作成することができる。				前回配布プリントの確認(40分) 配布プリントを復習する(20分)			
7	神経症に対する介入		介入ポイントを理解し、説明できる。				教科書P151～155を読む(30分) 配布プリントを復習する(30分)			
8	神経症に対する介入		授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説を作成することができる。				前回配布プリントの確認(40分) 配布プリントを復習する(20分)			
9	パーソナリティ障害に対する介入		介入ポイントを理解し、説明できる。				教科書P216～224を読む(40分) 配布プリントを復習する(20分)			
10	パーソナリティ障害に対する介入		授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説を作成することができる。				前回配布プリントの確認(40分) 配布プリントを復習する(20分)			
11	摂食障害・物質依存症に対する介入		介入ポイントを理解し、説明できる。				教科書P178～183を読む(30分) 配布プリントを復習する(30分)			
12	摂食障害・物質依存症に対する介入		授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説を作成することができる。				前回配布プリントの確認(40分) 配布プリントを復習する(20分)			
13	ケーススタディ		ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。				統合失調症の配布プリントの確認(45分) 配布プリントを復習する(15分)			
14	ケーススタディ		ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。				前回の進捗の確認(30分) 配布プリントを復習する(30分)			
15	ケーススタディ		ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。				前回の進捗の確認(30分) 配布プリントを復習する(30分)			
成績評価方法										
	知識(認知領域)		技術(精神運動領域)		態度(情意領域)		評価割合	成績評価基準		
定期試験	○						100	秀(4):90点以上		
小テスト							評価なし	優(3):80点以上		
宿題授業外レポート							評価なし	良(2):70点以上		
授業態度					○		評価なし	可(1):60点以上		
発表・作品							評価なし	不可(0):60点未満 未修得		
演習							評価なし			
出席					○		欠格条件	()内はGPA点数		
担当教員				実務経験紹介		精神科病院での勤務経験(13年)。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。				

科目名	精神障害作業療法学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	精神科病院や施設に勤務する作業療法士から、実際の臨床現場での実践を聞き、作業療法士の専門性を理解することを求める。また、精神科作業療法で用いられる各治療法を知り、実習などで実践することを求めたい。									
一般目標	精神疾患の各回復状態における作業療法の実際を学び、作業療法士の役割・存在意義を理解する。履修内容を説明する。									
テキスト 参考書等	適宜プリント配布									

到達目標			
知識(認知領域) 各領域における作業療法士の役割を説明することができる。			
技術(精神運動領域) 受講後に、自分なりの考えを述べるができる。			
態度(情意領域) 演習に真面目な態度で取り組むことができる。居眠りや私語をすることなく、意欲的に授業に取り組むことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。	精神科作業療法の概要について調べておく(40分) 配布プリントを見直す(20分)
2	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
3	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
4	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
5	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。	精神科デイケアの概要について調べておく(40分) 配布プリントを見直す(20分)
6	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
7	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
8	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
9	地域における作業療法士の役割	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。	精神科における地域支援の概要について調べておく(40分) 配布プリントを見直す(20分)
10	地域における作業療法士の役割	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
11	地域における作業療法士の役割	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
12	地域における作業療法士の役割	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
13	精神科作業療法で活用される評価法	評価を経験し、その治療的応用を考え、説明できる	精神科作業療法における評価法について調べておく(40分) 配布プリントを見直す(20分)
14	精神科作業療法で活用される評価法	評価を経験し、その治療的応用を考え、説明できる	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
15	精神科作業療法で活用される評価法	評価を経験し、その治療的応用を考え、説明できる	前回配布プリントを確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			100	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員		実務経験紹介	精神科病院にて精神科作業療法に10年以上従事している。		

科目名	発達障害作業療法学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	子供の発達過程についての基本的知識・技術を学習する。 発達障害を理解し、治療についての基本的知識・技術を学習する。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。									
一般目標	様々な発達に関する検査について、その目的や内容に関する知識を習得する。 知的障害児、情緒障害児を理解し、治療的アプローチに関する知識を習得する。感覚統合療法について理解し、基本的技術を習得する。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。									
テキスト 参考書等	標準理療法作業療法学 人間発達学（医学書院） 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版（医学書院） 参考図書：発達を学ぶ－人間発達レクチャー－（共同医書出版社）									

到達目標			
知識(認知領域) 感覚統合について説明できる。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。			
技術(精神運動領域) 感覚統合の評価を実施できる。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての治療計画を立案できる。			
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	感覚統合の理論	感覚統合の理論について説明できる。	感覚統合の基本的な理論について予習する。(30分) 授業で学んだ感覚統合の理論を復習する。(30分)
2	感覚統合の理論	感覚統合の理論について説明できる。	前回に続き、感覚統合の理論について予習する。(30分) 感覚統合の理論的背景について復習する。(30分)
3	発達障害と感覚統合	発達障害と感覚統合の関係について説明できる。	発達障害の特性と感覚統合の関係を予習する。(30分) 発達障害における感覚統合の役割を復習する。(30分)
4	発達障害と感覚統合	発達障害と感覚統合の関係について説明できる。	引き続き、発達障害と感覚統合の関係を予習する。(30分) 授業で学んだ関連性について整理し復習する。(30分)
5	感覚統合の評価と活動の分析	感覚統合の評価について説明し実施できる。	感覚統合の評価法と活動分析について予習する。(30分) 実際の評価手順や活動の分析方法を復習する。(30分)
6	感覚統合の評価と活動の分析	活動について分析できる。	活動分析の具体的な視点について予習する。(30分) 授業で行った活動の分析結果を振り返り復習する。(30分)
7	感覚統合的アプローチ	感覚統合を用いた治療が説明できる。	感覚統合を用いた治療アプローチを予習する。(30分) 授業で学んだ感覚統合の治療法を復習する。(30分)
8	感覚統合的アプローチ・まとめ	感覚統合を用いた治療が説明できる。	これまでの感覚統合に関する知識を再確認する。(30分) 感覚統合を用いた治療全体を総復習する。(30分)
9	脳性麻痺の型と評価(久保)	脳性麻痺の病型による特性を説明でき、評価項目を考えることができる。	脳性麻痺の病型とその特性について予習する。(30分) 各病型に応じた評価項目を整理し復習する。(30分)
10	脳性麻痺に対する作業療法評価(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。	脳性麻痺に対する作業療法の目的を予習する。(30分) 提示された事例に対する作業療法を復習する。(30分)
11	脳性麻痺に対する作業療法評価(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。	引き続き、脳性麻痺の作業療法について予習する。(30分) 脳性麻痺事例における評価項目を整理し復習する。(30分)
12	脳性麻痺のケーススタディ(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。	脳性麻痺の治療計画立案について基礎を確認する。(30分) 立案した治療計画のプロセスを振り返り復習する。(30分)
13	脳性麻痺のケーススタディ(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。	前回のケーススタディの課題について再確認する。(30分) 治療計画の修正点や要点を整理し復習する。(30分)
14	脳性麻痺に対する作業療法の実践(久保)	脳性麻痺事例に対する治療原理を考えることができる。	脳性麻痺に対する治療原理について予習する。(30分) 実践的なアプローチと治療原理を復習する。(30分)
15	脳性麻痺へのアプローチとまとめ(久保)	脳性麻痺に対する作業療法についての治療計画を立案し、治療原理を説明できる。	脳性麻痺に対する作業療法全体を再確認する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として発達領域における作業療法の実施経験あり。	

科目名	作業療法実践技術論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	領域回復期別の作業療法の現状を学ぶ。									
一般目標	臨床実習に向けて、実際の臨床現場で行われている作業療法の目的やプロセスを理解し、臨床実習での実践力を身につける。									
テキスト 参考書等	適宜資料配布									

到達目標			
知識(認知領域) 各領域における作業療法の目的やプロセスを説明できる。			
技術(精神運動領域) なし			
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	急性期における作業療法の 実際①	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	急性期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
2	急性期における作業療法の 実際①	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	急性期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
3	急性期における作業療法の 実際②	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	急性期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
4	急性期における作業療法の 実際②	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	急性期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
5	地域における作業療法の 実際①	地域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	地域におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
6	地域における作業療法の 実際①	地域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	地域におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
7	高齢期における作業療法の 実際②	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	高齢期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
8	高齢期における作業療法の 実際②	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	高齢期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
9	高齢期における作業療法の 実際②	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	高齢期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
10	高齢期における作業療法の 実際②	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	高齢期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
11	精神科病院における作業療 法の実際	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	精神科におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
12	精神科病院における作業療 法の実際	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	精神科におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
13	回復期における作業療法の 実際	回復期における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	回復期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
14	回復期における作業療法の 実際	回復期における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。	回復期におけるOTの役割について予習する(40分) 講義の感想文を作成する(20分)
15	患者ボランティア(切断)	障害がありながらも、生きがいを持ち自立した生活を送る方の講話を聞くこ とで、作業療法士としての役割を理解できる。	上肢切断について復習をしておく(40分) 講義の感想文を作成する(20分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			100	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	各領域で臨床勤務	

科目名	スポーツ作業療法学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・講堂・レクリエーション室
授業概要	趣味・余暇活動は人の日常生活をより良くするための重要な要素であり、スポーツもその一つの手段である。この授業では、障がい者がスポーツを通し、楽しみ、自己実現の手段を得る事をどのようにして支援していくかを学ぶ。									
一般目標	・障がい者スポーツ対象者の病態に関する知識を習得する。 ・障がい者スポーツ指導上必要な知識を習得する。 ・障がい者スポーツに実際に関わる事で、作業療法士としての役割について理解を深める。									
テキスト 参考書等	適宜資料配布									

到達目標			
知識(認知領域) ・障がい者スポーツの理念・意義・歴史について概要を理解する事が出来る。 ・障害者スポーツ指導上必要な知識を習得する。			
技術(精神運動領域) 対象者に対する競技指導を体験・模倣できる。			
態度(情意領域) 学外活動を行う上で必要な礼節、立ち居振る舞いを学び、実践することが出来る。 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者スポーツの意義や理念を理解し、説明することが出来る。	障がい者スポーツの歴史と理念を予習する(30分) 講義を振り返り、障がい者スポーツの意義を整理する(30分)
2	全国障がい者スポーツ大会の概要	全国障がい者スポーツ大会の基本理念などを通して地域のスポーツ振興を進める役割を理解し、説明することが出来る。	全国障がい者スポーツ大会の目的と概要を予習する(30分) 講義を振り返り、大会が担う役割について整理する(30分)
3	障がい者スポーツ推進の取り組み	地域の障がい者スポーツ振興の現状を理解し、説明することが出来る。	地域におけるスポーツ振興の現状を予習する(30分) 講義を振り返り、地域の推進の取り組みを整理する(30分)
4	障がい者スポーツに関する諸施策	障がい者福祉施策および障がい者スポーツに関する施策を理解し、説明することが出来る。	障がい者福祉施策とスポーツ関連施策を予習する(30分) 講義を振り返り、関連する諸施策の要点を整理する(30分)
5	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。	きりんピックの目的と競技内容を予習する(30分) 交流活動を振り返り、対象者との関わり方を整理する(30分)
6	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。	対象者との適切なコミュニケーション方法を復習する(30分) 交流活動を振り返り、生じた課題とその対応を整理する(30分)
7	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。	交流を踏まえ、自身の関わり方の課題を整理する(30分) 交流活動を振り返り、実践できた配慮や工夫を整理する(30分)
8	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。	交流を踏まえ、自身の関わり方の課題を整理する(30分) 交流全体を振り返り、作業療法士としての学びを整理する(30分)
9	スポーツのインテグリティ(高潔性)と指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーと共に学び続ける姿勢を理解し、説明することが出来る。	ポーツにおけるインテグリティの意味を予習する(30分) 講義を振り返り、指導者に求められる資質を整理する(30分)
10	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	対象者が障がい者スポーツを実施するために必要な説明と支援ができる。	身体障がいの特性と指導上の留意点を予習する(30分) 講義を振り返り、身体障がいに対する指導の工夫を整理する(30分)
11	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	対象者が障がい者スポーツを実施するために必要な説明と支援ができる。	知的・精神障がいの特性と指導上の留意点を予習する(30分) 講義を振り返り、知的・精神障がいへの指導の工夫を整理する(30分)
12	コンディショニング①	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。	スポーツにおけるウォームアップの意義を予習する(30分) 講義を振り返り、ウォームアップの実践方法を整理する(30分)
13	コンディショニング②	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。	スポーツにおけるリカバリーの方法を予習する(30分) 講義を振り返り、リカバリーの実践方法を整理する(30分)
14	コンディショニング③	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。	障がい者スポーツにおけるトレーニング理論を予習する(30分) 講義を振り返り、トレーニングの要点を整理する(30分)
15	コンディショニング④	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。	スポーツ現場での救急対応(応急処置)を予習する(30分) 講義を振り返り、救急対応の手順を整理する(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	一般病院に15年間勤務。作業療法士として障がい者スポーツ活動に携わった経験あり。	

科目名	臨床実習Ⅱ					単位数	8	時間数	320	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・各実習施設	
授業概要	医療・福祉関連の実習施設で、基本的な作業療法過程を経験する。									
一般目標	各疾患において用いられる評価を経験し、評価技術を身につけるとともに各評価の意義説明できる。また、評価結果から問題点を抽出し、治療目標の設定、さらには治療計画の立案をすることができる。									
テキスト 参考書等	臨床実習Ⅱガイドブック 適宜、資料を配布する。									

到達目標			
知識(認知領域) ・対象者の疾患と治療の概要を説明できる。 ・対象者について、一般的な作業療法評価の過程が説明できる。			
技術(精神運動領域) ・対象者について、一般的な作業療法評価の過程に関連した情報を収集できる。また、文書化できる。			
態度(情意領域) ・実習に意欲的に参加できる。 ・課題等を期日までに提出できる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
	臨床実習ⅡⅠ期	Ⅰ期:2026年11月9日(月)～12月7日(月) 20日間 ＜評価＞ ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定の項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定の項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 ＜目標設定＞ ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 ＜治療計画の立案＞ ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。	臨床実習ガイドブックを熟読し、実習の在り方や目的、到達目標などを確認おする。 実習地の特性や領域、対象疾患に合った評価を事前に調べ、実施できるように練習をする。
	臨床実習ⅡⅠ期 実習報告会	2026年12月予定	
	臨床実習ⅡⅡ期	Ⅱ期: 2027年1月8日(金)～2月5日(金) 20日間 ＜評価＞ ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定の項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定の項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 ＜目標設定＞ ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 ＜治療計画の立案＞ ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。	臨床実習ガイドブックを熟読し、実習の在り方や目的、到達目標などを確認おする。 実習地の特性や領域、対象疾患に合った評価を事前に調べ、実施できるように練習をする。
	臨床実習ⅡⅡ期 実習報告会	2027年2月予定	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			10	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			90	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員			実務経験紹介	作業療法士としての臨床経験を有し、実習生の指導経験あり。日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了	

科目名	作業療法総括演習A					単位数	1	時間数	15	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・3階基礎医学実習室・木工 金属陶工室・講堂
授業概要	臨床実習（評価実習）に挑むために必要な書類の作成、リスク管理に関わる手技の習得、実習終了後の報告会に向けたレジュメ作成を実施する。 また、地域の健康づくりの実際や、患者ボランティアとのかかわりを経て、地域における作業療法士の役割について理解する。									
一般目標	臨床実習の内容・目標が理解できる。リスク管理、救急救命に関する手技を習得できる。地域での作業療法士の役割について理解出来る									
テキスト 参考書等	適宜配布									

到達目標
知識(認知領域) 評価から作業療法治療・訓練の一連の課程が理解できる。
技術(精神運動領域) 提出物等における報告、連絡、相談は適宜することができる。事例報告会におけるレジュメを他者に分かりやすいよう作成し、端的にまとめて報告することができる。臨床現場で必要な知識・技術（感染予防、心肺蘇生等）を身につけることができ、手順や留意点を説明することができる。
態度(情意領域) 医療人としての倫理観を身につけることができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	臨床実習Ⅱ 実習前オリエンテーション	臨床実習の目的や課題を確認し、説明できる。実習スケジュール確認を行い、計画的に実習準備を実施する事が出来る。 実習に挑む作業療法学生としての心構えや倫理、立ち居振る舞いについて学び実践することが出来る。	実習の目的と目標を要綱で確認する。(30分)
			実習に必要な書類の確認。(30分)
2	書類作成(プロフィール・行動目標)	自己の課題を振り返り、具体的かつ判定可能な行動目標を立案することが出来る。	実習地の特性を調べておく。(30分)
			自己の課題と行動目標を適切に整理。(30分)
3	レジュメ作成指針	レジュメの作成方法を理解することが出来る。	レジュメ作成のガイドラインを予習。(30分)
			レジュメ内の各項目を確認する。(30分)
4	事例報告書の作成指導Ⅰ期①	レジュメに関するフィードバックを受けることが出来る。	1期症例の概要をノートにまとめ予習。(30分)
			指導された修正箇所を確実に見直す。(30分)
5	事例報告書の作成指導Ⅰ期②	レジュメに関するフィードバックを受けることが出来る。	1期症例の評価情報を再整理し予習。(30分)
			修正後の記述に不備がないか復習する。(30分)
6	事例報告書の作成指導Ⅱ期①	レジュメに関するフィードバックを受けることが出来る。	Ⅱ期症例の概要をノートにまとめ予習。(30分)
			フィードバック内容をレジュメに反映。(30分)
7	事例報告書の作成指導Ⅱ期②	レジュメに関するフィードバックを受けることが出来る。	報告書の構成案をテキストで予習する。(30分)
			指導内容を基に論理構成を復習する。(30分)
8	小学生イベント企画・運営①	小学生イベントの企画を検討し、開催に必要な物品を準備できる。	小学生向け企画の趣旨と内容を予習。(30分)
			開催に必要な物品の準備状況を確認。(30分)
9	小学生イベント企画・運営②	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。	運営手順と自身の役割を予習する。(30分)
			対象者への援助方法を振り返り復習。(30分)
10	小学生イベント企画・運営③	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。	安全な作業環境の整備法を予習する。(30分)
			参加者への指示の出し方を振り返る。(30分)
11	小学生イベント企画・運営④	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。	全体スケジュールの最終確認を予習。(30分)
			イベント運営全体の成果を総括する。(30分)
12	感染対策	臨床実習において遭遇するであろうリスクに対し、適切なリスク管理を学び実践することが出来る。	医療安全の基礎知識をテキストで復習。(30分)
			病棟特有のリスクと管理法を復習する。(30分)
13	喀痰吸引講習	喀痰吸引の基礎的知識・手順・手技を習得し、実践することが出来る。	吸引に関わる解剖・運動学を予習する。(30分)
			吸引の手順と安全管理を復習する。(30分)
14	喀痰吸引講習	喀痰吸引の基礎的知識・手順・手技を習得し、実践することが出来る。	吸引手技の留意点を再度予習する。(30分)
			演習で体感した力加減を振り返る。(30分)
15	レジリエンス・ストレスコーピング	レジリエンス、ストレスコーピングを学び、実習における自身のストレスに対し適切に対処することが出来る。	自己のストレス要因と対処法を予習。(30分)
			全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了		

科目名	臨床実習セミナーⅡ					単位数	1	時間数	15	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・レクリエーション室
授業概要	臨床実習で対象者に対して評価や作業療法を実施するうえで最低限必要となる知識を習得するために、国家試験過去問題を活用して学習する。なお、学習方法は、個人学習、グループワークなど内容に応じて変更する。また、作業療法専門学習の一環として実技練習を行います。									
一般目標	・国試過去問題(直近3～5年)の問題を解き終わる。 ・作業療法専門の一般的技能を習得できる。									
テキスト 参考書等	・ヒント式トレーニング 基礎医学編/臨床医学編 最新版 (南山堂)									

到達目標			
知識(認知領域) ・作業療法士国家試験過去問題(直近3年)は解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。			
技術(精神運動領域) ・作業療法専門の一般的技能を実践できる。			
態度(情意領域) ・授業に参加できる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	ヒント式トレーニングで基礎医学を予習する(30分)。 国試過去問の解法と専門技能の手順を復習する(30分)。
2	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	過去3年分の国試問題から頻出箇所を確認する(30分)。 演習で実施した専門技能を振り返る(30分)。
3	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	解剖学・運動学の基礎知識をテキストで復習する(30分)。 間違えた国試問題の解説を読み込み理解を深める(30分)。
4	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	臨床医学の主要な疾患について要点を予習する(30分)。 専門技能の練習で指摘された留意点を整理する(30分)。
5	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	作業療法専門分野の重要用語を予習する(30分)。 学習範囲をCBTで復習する(30分)。
6	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	評価学の基礎となる検査測定法を予習する(30分)。 評価実技の正確性と手順を再度確認し復習する(30分)。
7	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	精神障害領域の国試過去問を予習する(30分)。 グループワークで得た知識をノートにまとめる(30分)。
8	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	身体障害領域の治療概念をテキストで確認する(30分)。 専門技能の習熟度を自己チェックし復習する(30分)。
9	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	発達障害・老年期障害の基礎知識を予習する(30分)。 授業で扱った主要テーマの解説を復習する(30分)。
10	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	地域作業療法の概要について参考書で予習する(30分)。 実技練習における対象者への配慮を振り返る(30分)。
11	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	日常生活活動(ADL)の評価法を予習する(30分)。 苦手とする国試問題の類似問題を解き直す(30分)。
12	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	義肢装具学やリハ工学の基礎を予習する(30分)。 専門技能の実践的な応用方法を復習する(30分)。
13	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	高次脳機能障害の評価と介入を予習する(30分)。 各種評価指標の基準値と意味を再確認する(30分)。
14	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	直近3年間の国試問題で未習得点を予習する(30分)。 実技試験を想定して専門技能の総仕上げを行う(30分)。
15	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題(直近3～5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。	これまでの国試演習の誤答箇所を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として、医療、福祉、教育での経験は10年以上有している。		